



# みんな大好き! ~ 佐々木恵未さんの生涯をたどる ~

2019年12月27日(金) ▶ 2020年1月7日(火)

会場: 一畑百貨店 松江店6階催会場

時間: 午前10時~午後7時(入場は閉場の30分前まで)

※12月31日(火)は午後6時に閉場。1月1日(水・祝)は店休いたします。最終日は午後5時に閉場。

入場料(税込): 前売券 一般・大学生/600円 当日券 一般・大学生/800円 中・高校生/500円

※こころパスポートをはじめ、全国の子育て応援パスポートをご提示で100円引

※身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方及びその付き添いの方は1名無料

チケット販売 山陰中央新報社 事業部、一畑百貨店、島根県民会館チケットコーナー、松江音楽協会(プラパホール)、今井書店 各店、ロソンチケット(Lコード:62198) など

■主催/山陰中央新報社 ■協力/一畑百貨店 ■企画協力/恵未童画館、今井美術館、安来市加納美術館 ほか ■特別協賛/島根県  
■後援/島根県教育委員会、松江市・松江市教育委員会、江津市・江津市教育委員会、NHK松江放送局、TSK山陰中央テレビ、BSS山陰放送、日本海テレビ、山陰ケーブルビジョン、エフエム山陰

お問い合わせ 山陰中央新報社 事業部(TEL.0852-32-3415 月~金10:00~17:00 祝日は除く)/一畑百貨店 販売促進部(TEL.0852-55-2616 10:00~19:00)



「チューリップのひこうき」

人が好き、街が好き。



一畑百貨店

松江 〒690-8555 松江市朝日町661 TEL.(0852)55-2500(代)  
(営業時間/10:00~19:00) <http://www.ichibata.co.jp/dept/>





▲「アブラカダブラ(II)」

# みんな大好き!

～佐々木恵未さんの生涯をたどる～

江津市の童画家 佐々木恵未さん(1955-2014)が59歳で逝去され、5年が過ぎました。佐々木さんは、子どもの心を持ち続け、数多くのやさしく温かい童画を描き続けました。幼少のころに書いた作品から遺作までを通して佐々木さんの生涯を辿ります。

## 【展示内容】

未公開作品を含む200点以上(予定)現代童画会賞を受賞した「アブラカダブラ」(1979年)や島根県子育て支援カード「こっころ」に使われた「チューリップのひこうき」(1993年)などのほか、「ことのは大賞」の入賞作に、佐々木さんが絵を添えた「あったか家族」シリーズの原画などを展示します。



▲「アブラカダブラ(I)」

### ① 絵をかくの大好き

少女時代からデビューまでの作品

絵をかくのが大好きだった彼女は大学の他に、どうしても絵が描きたくて、日本デザインスクールの夜学にも通った。そこで出会ったのが有賀忍さんだった。有賀さんの指導のお陰で恵未さんの才能は開花した。

### ② 花開いた才能

東京で活躍していた頃の作品

恵未さんの作品はTIBIテヘラン国際絵本イラストビエンナーレで入選するなど、海外でも評価された。子育て支援カード「こっころ」の絵は、「チューリップのひこうき」で入選した3枚組の絵本の一部だ。

### ③ ふるさとに帰る

若い頃は、心の中にある架空の町を描いていた恵未さん。43歳の時に島根に帰ると、ふるさとの風景を描くようになった。「いつもの場所で」や「みんなの学校」はじめ、ふるさと島根をテーマにした作品を展示。

### ④ あったか家族

島根県が子育て支援の一環として、家族愛あふれる言葉を募集。入選作品に恵未さんがすてきな絵を添えた。作品は、2008年3月から2014年3月9日まで山陰中央新報社の「読者ふれあいページ」で連載された。

### ⑤ みんなありがとう

恵未さんは大人になっても童心を持ち続け、59歳で亡くなるまで数多くの絵本や童画を描き続けた。大元神楽(未完)や絶筆となった最後の作品(未完)などを展示。

ギャラリートーク

11/27(金) 11:00～  
11/4(土) 11:00～

安来市加納美術館 館長  
**神英雄氏**

昭和29年10月青森県八戸市生まれ。昭和57年3月龍谷大学大学院修了後、龍谷大学仏教文化研究所客員研究員を経て地域文化研究所代表。龍谷大学講師・NHK大阪文化センター講師・種智院大学講師ほか兼任。平成12年より27年3月まで石正美術館と浜田市世界子ども美術館で学芸員を勤め、平成27年4月より現職。宮城学院女子大学客員研究員兼任。

11/27(金) 14:00～  
11/28(土) 11:00～

学校法人江戸川学園 江戸川大学  
子どもコミュニケーション学科 客員教授

**有賀忍氏**

恵未さんの恩師、  
NHK番組「おかあさんといっしょ」で  
放送された「にんごころ」の作者



©SHINOBU ARIGA



学習院大学、日本デザインスクール卒業。イラストレーターからスタートして絵本制作の道へ。

創作絵本や雑誌連載とともに、版画制作を開始。板を活用した「板絵」も「開発」、創作を開始する。以来四十数年制作を続けている。懐かしい心のふるさとを「懐郷の詩」として描き、近年は子に対する父の想い、母の眼差し、「慈愛」をモチーフにしている。

## 子育て応援“こっころコーナー”開設します!

(島根県)

こっころとは?

こっころ(coccolo)はイタリア語で“かわいいこども”という意味があります。

島根県では、そんなイメージにピッタリな佐々木恵未さんのイラストをモチーフにした、こっころパスポート事業に取り組んでいます。平成18年から始まったこの事業では、妊婦がいる家庭から、18歳までの子どもがいる家庭に累計約116,000枚(平成31年3月31日現在)のこっころカードが交付されています。

このこっころカードを利用することで、現在2,300店舗ほどのこっころ協賛店で様々な子育て支援サービスが受けられます!



↑子育て家庭用のこっころカード



↑妊婦がいる家庭用のこっころカード